

インターネットテレビ放送番組制作による情報生成・発信能力の開発*

1 T-1

武田 亘明**

高本 茂***

北星学園女子短期大学 (株) 富士通北海道システムエンジニアリング

教科目のなかで行っているインターネットやマルチメディアの技術に関する学習に加え、総合的に情報を企画・生成、発信する能力開発のための実践的教育方法を開発することを目的として、インターネットテレビ放送を行っている。インターネットテレビ放送の教育的活用に関する実践と今後の課題について報告する。

1、はじめに

我国としての情報教育の指針が示され、自治体等への補助が開始され、一般市民向けの IT 講習もはじまった。通信サービス会社では、各家庭にまで高速な通信環境の提供を始めている。ビジネス分野はもとより、公共サービスなど市民生活情報も、インターネット等を介して情報交換され、市民ひとり一人が、積極的に情報社会に参加していくことが求められている。

2、市民が求められる情報に関する能力

高度情報通信社会で生きていく市民が求められる情報に関する能力は、情報受信能力、情報処理能力、情報活用能力、情報生成能力、情報発信能力、情報交換能力（communication）、情報協働能力（collaboration）の 7 つである。

3、実践的な情報生成・発信教育の在り方

WEB やストリーミング技術の教育活用は、講義などをメディア上で行うことにより、遠隔地からも受講できるサービスとして行われていることが多い。

情報生成・発信能力の開発については、このメディアを学生自身の手に渡し、これまでの講義・実習などの形式に加えて、メディアをも活用して、一般社会の人々と積極的に交流し、自由に企画立案・実践することをくり返すことで、学習者の意欲を高め

より効果的に行うことができるものとする。

4、本学の情報関連カリキュラム

図 1 のように、1 年では、ワープロ、電子メール、表計算についての基礎を学ぶ「基礎情報処理」、情報社会と市民生活について解説する「生活情報論」、情報技術に関する「情報処理概論」、グラフィクスの基礎を学ぶ「コンピュータグラフィクス」と電子出版や WEB 制作に関する「デスクトップパブリッシング」を開講している。2 年では、情報社会とネットワークシステムについて「情報システム論」、アニメーション制作、作曲・編曲に関する「マルチメディア」、製品や番組の企画・制作を行う「プレゼンテーション」、総合的にマルチメディア作品を制作する「卒業制作」を開講している。（註 1）

5、インターネットテレビ放送の取り組み

2000 年 11 月から (株) 富士通北海道システムエンジニアリングと本学との共同研究の場として、インターネットテレビ放送を行う「マルチメディア研究会」を発足し、テレビ放送局関係者やインターネットサービスプロバイダ（以下 ISP と称す）技術者との勉強会、放送システムの構築、企画立案、取材活動、ビデオ編集、番組制作・放送、情報教育関係研究会への参加・発表を行ってきた。研究会会員は在学生・卒業生など 15 名で、放送は毎週水曜日

*On the development of information producing ability and information sending ability by the Internet TV program production.

**Nobuaki TAKEDA: Hokusei Gakuen Women's Junior College

***Shigeru TAKAMOTO: FUJITSU HOKKAIDO SYSTEMS ENGINEERING LIMITED

19:00 から 30 分間の生放送である。(註 2)

6、インターネットテレビ放送システム

教室に常設スタジオ設備として、カメラ、パソコンなどからの映像をスイッチャーへ、またマイク、ビデオなどの音声をミキサーに集め、それらをエンコーダ用パソコンへ入力、ストリーミングデータに変換したものを ISP のストリーミングサーバへ送る。視聴者は ISP のサーバへアクセスして番組を視聴するものである。

また、ディスカッションボードを設置しいろいろな意見を受け付け、チャットによりリアルタイムに視聴者との交流をしている。この他にインターネットテレビミーティングシステム上に専用会議室を設けリアルタイムに話し合いを行い、スタジオの様子を 24 時間見られる映像サーバを設置して、一方通行になりがちな放送を双方向に交流できる環境を構築している。(註 3)

7、おわりに

学校内や教科内で受け身の活動に終わらず、自由な情報生成・発信活動を広く市民や企業人と交流しながら行うことで、学生達はより社会に目を向け、

諸活動はますます活性化していくことが分かった。

今後の課題としては、毎週生放送という重圧に耐えて行うためにも(1) 広く学外からも参加学生等の勧誘を進め、(2) 番組企画・内容の更なる充実、(3) 放送実施体制の確立、(4) 放送画面デザイン等の改善などに取り組んでいく予定である。

【註】

1、開講科目は、すべて選択科目。「コンピュータグラフィクス」と「マルチメディア」はデジタルコンテンツ制作会社デザイナーに、「情報システム論」は ISP エンジニアに講師依頼をしている。

2、Hokusei-iTV Rosehip: <http://raku2.hokusei-jc.ac.jp/itv>

3、エンコーダソフトは「Real Producer」。サーバは「Real Server」(200ID 同時接続)。インターネットテレビミーティングシステムは「iVisit」。映像サーバは「Web Image Server」である。

【参考文献】

1、「インターネットストリーミング」(2000.7、共立出版(株)、大澤光編著)

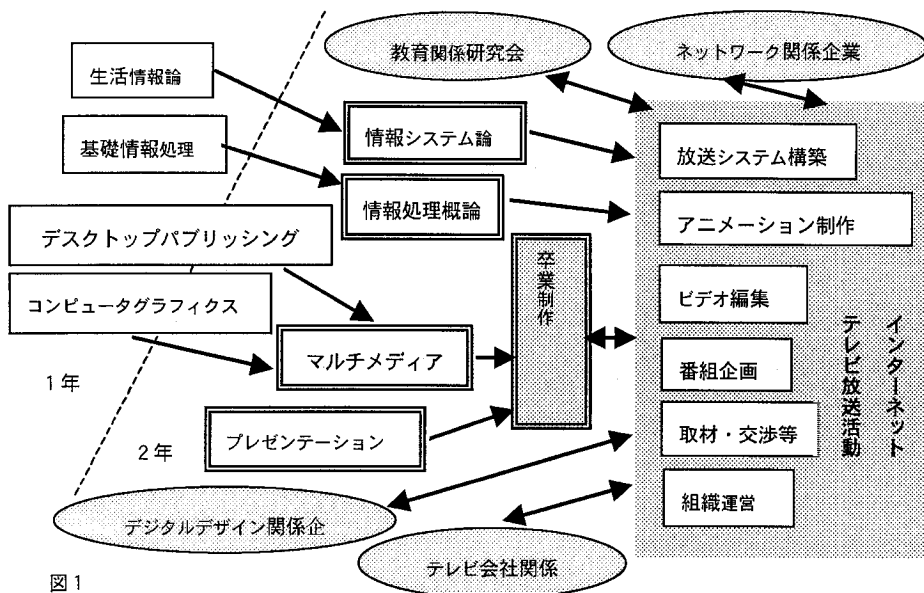


図 1